

鉄の話①  
「むらの鍛冶屋」

鑊に使われる鉄

衣川良介



私は衣川良介、ハンドルネーム「むらの鍛冶屋」。世界文化遺産、白鷺の城のある姫路市に住んでいます。高校時代は姫路駅から歩いて大手門をくぐり、石垣の東を抜け喜斉門を通って学校に通った、お城大好き人間です。

しかし当時、姫路城は昭和の大修理中で、天守閣は大屋根に覆われ、今のような白亜の天守閣は見ることができませんでした。私が高校を卒業した年の6月に完工しました。

その後大学を卒業し、現在の仕事に就きました。主に船舶用のアンカーチェーンを造る衣川製鎖工業株式会社です。現場の製造作業をマスターするため「他人の飯」を食わず、二代目として入社しました。

鎖づくりのことを知ってほしくてホームページ「むらの鍛冶屋」を1997年に開設。今は、鍛冶屋のこと鉄・ステンレス鋼、鎖や古代技術のことを書いています。「誰にでも判る言葉で書こう！」そう考え専門用語を出るだけ、使わずに技術のことを伝えたいと思っています。

そんな姿勢からか？今回、月刊誌『さかん』に鉄のことを書くことになりました。従来から大変お世話になっている、元東京大学教授



白い壁がまぶしい姫路城

表 1

		読み	炭素量	焼入	硬さ	用途	JIS 規格による	
一般的素材	地金	じがね	☆	なし	☆	建築資材	SS400	一般構造用圧延鋼材
	半焼き	はんやき	☆☆	なし	☆☆☆	機械部品	S50C	機械構造用炭素鋼材
	油焼き	あぶらやき	☆☆☆	○	☆☆☆☆		SK-5	炭素工具鋼
	本焼き	ほんやき	☆☆☆	○	☆☆☆☆☆		SK-5	炭素工具鋼
特殊な素材	白紙		☆☆☆☆	○	☆☆☆☆☆	刃物・鉋・ノミ	日立金属(株)の社内規格	
	青紙		☆☆☆☆	○	☆☆☆☆☆	刃物・鉋・ノミ		
	黄紙		☆☆☆	○	☆☆☆☆☆	刃物・鉋・ノミ		
ステンレス鋼			☆☆	○	☆☆☆☆☆		SUS420J2	

水原諄二先生から『私が書くより、衣川さんが『むらの鍛冶屋』風に書く方が皆さんによく伝わると思うので、是非書いてください。』そんなことでお引き受けした次第です。

さて、鉄のことを書く段になって、左官の仕事や鍍のことは全く知らず、資料を読んだり調べたり。逆に疑問が出てきて鍍を作っている業者さんに教えを乞いました。専門用語は恐ろしいものです。鉄を比較的知っている私にも判らない言葉を皆様は使っておられます。鍍の材料名?? 処理方法がごっちゃになっている言葉です。

①地金(じがね) ②半焼(はんやき) ③油焼(あぶらやき) ④本焼(ほんやき)  
そこで、それぞれの材質と熱処理の有無と硬さを表1にまとめました。

鉄は炭素量(C)が多くなると硬くなります。炭素量(C)が多い鋼は焼き入れすると硬くなります。

炭素量の少ない鉄は焼きが入りません。(S400 S25C)  
鼻薬(合金元素)を少し添加すると、焼き入れ性能を高くすることが出来ます。(青紙にはクロム(Cr)とタンゲステン(W)が添加されています。)

☆左官用語では地金(じがね)、普通、鍛冶屋では地鉄(じがね)と書き、その上に鋼(はがね)を鍛接して刃物にします。包丁や鉋やノミ、ナイフなど、こんな時に地鉄と言います。炭素量の少ない鉄で焼きが入りません。(S400 S25C)

☆左官用語では半焼き S50C~S55C 焼き入れなし。一般ではこの素材を焼き入れせずに使うことはありません。

☆今ではほとんど作られていませんが、鍛造の鍍もあります。厳選された材質の均一な鉄板づくりの鍍よりも、鍛造された鍍は素地の目が詰まり、強くしなやかな道具に変身します。

一つの道具に、こんなに異なった素地や硬さを持った道具は鍍の他には無いのではないのでしょうか。しかしそれは左官の皆様方の作業方法や、作業箇所に対応する経験が作り上げたものなのです。皆様方は壁づくりの専門家です。荒塗り、中塗り、仕上げ塗りのそれぞれの工程に、土や砂その他の材料の荒さや配合率、加える力の強弱、塗りのスピードの差、それらの要素により鍍の硬軟、たわみの強さなどが生まれてきたのです。

手にあつた道具、使い慣れた道具は大切な物です。鍛造の鍍がほとんど作られなくなつてしまっていますが、伝統の白壁やピカピカに磨かれた顔の写るような黒壁がこれからも造り続けられることを期待しています。

ちなみに、左の写真は我が家の玄関にある飾り棚で、上手な左官さんが仕上げしてくれた、私のお気に入りの場所です。

ホームページアドレス

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>

メールアドレス

ryou@memenet.or.jp

